

平成 26 ( 2014 ) 年度 教員活動報告書 ( 1/3 )

学部・学科	総合社会学部・総合社会学科	職名	教授	氏名	タキザワ マサミ 瀧澤 正己
学歴	昭和51年 3月 明治学院大学文学部英文学科卒業 平成 2年 9月 ニューヨーク州立大学バッファロー校教育学部大学院外国語教育研究科修士課程修了				
学位	平成 2年 9月 教育学修士 ( 米国ニューヨーク州立大学バッファロー校 )				
専門分野	英語教育、応用言語学				
専門資格					
所属学会	平成 9年 8月 日本通訳翻訳学会 平成11年11月 日本メディア英語学会 平成23年 4月 日本児童英語学会 平成23年 4月 沖縄英語教育学会 平成25年 4月 小学校英語教育学会				
受賞					
担当授業科目	学 部 英語リーディング ・ (1年次必修科目)、英語リーディング ・ (2年次必修科目)、英語コミュニケーション ・ (2年次必修科目)、				
論文指導	該当なし				
F D 活 動 ・ 教 育 実 績	科目名	科目カテゴリー	実施学期	履修者数	
	英語リーディング ・	講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ 実験	春 ・ 秋	約 120 名 ( 各 30 名 × 4 クラス )	
	<p>授業の概要： 英文の直読直解力養成を目指して、サイト・トランスレーションを授業予習として義務付けた。具体的にはスラッシュで区切った英文を意味単位ごとに日本語訳を付けさせ、その意味単位ごとの日本語の訳文を毎回授業開始時にチェック、点数化し成績の一部とした。この課題の履行率は高く、受講生の多くが学習予定の英文の意味を把握した状態で授業に臨むことができた。更に、英文の意味処理を出来るだけ短時間でできるように、宿題のスラッシュを施してある英文テキストを、2人ひと組になり、1人が意味単位ごとにポーズを付けながら英文フレーズを音読し、もう1人がポーズの個所でそのフレーズを日本語に速訳する練習を授業に取り入れた。この練習の後、授業担当者がフレーズの意味単位ごとに内容説明や文法説明を加え、その後、同じ英文の音声テープをスラッシュごとにポーズを付けた教材を使い、そのポーズの箇所で英文をリピートする逐次リピート練習を授業に取り入れた。練習は、1度目は自信がなければ “look up and say” の形式で英文を見てもよいが、2度目は英文を見ずに音声のみでリピートするように指導した。仕上げの段階として、毎回数組の学生に、1人には授業用ピンマイクを、もう1人にはハンドマイクを使い、1人がポーズを付けながら英文を読みあげ、もう1人がその個所を日本語に速訳する原稿付き疑似通訳のパフォーマンスをおこなった。</p>				
<p>教育活動の振り返り 教育活動の成果： 数語の短いフレーズリピート(逐次リピート)ならば、ほぼ全員の学生が困難を感じないで出来る。この逐次リピート練習により、英語は聞こえたところから理解するという直読直解の重要性にも学生の注意を向けさせることができた。更に、仕上げの段階としての原稿付き疑似通訳パフォーマンスも人前で失敗したくないとの気持ちで、授業中の速訳練習や音読練習に緊張感を持って熱心に取り組む受講生が多かった。英文の直読直解の重要性はクラス全員が共有できた。</p>					

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (2/3)

FD 活動 ・ 教育 実績	<p>今後の課題：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでに身に着けた「返り読み」の習慣からはなかなか脱却できない。授業で「先入れ先出し(First In, First Out)」方式を強制し、その授業では実践しているように見えてもテキスト以外の英文を解釈するときに「返り読み」に戻る学生が散見される。</li> <li>・ 各自が自宅でも練習できるポーズを施した音声教材の入手(又は作成)およびそれを継続的な自学自習に取り入れることが重要。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学内外のFD関連講演会/セミナー等への参加実績 特になし。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育効果が高い、あるいは教育の一環として行われている課外活動等</li> <li>・ オフィスアワーを学生からの学習相談に使うとともに、大学院進学を希望する学生からの大学院入試英語過去問題の質問に答える時間とした。</li> <li>・ オフィスアワー時に、海外大学院留学を希望している大学院生への留学個別指導を実施した。</li> <li>・ 12月に全2回生を対象にした英語オラルテスト(口頭試験)を英語科教員全員で実施した。</li> <li>・ 2回生英語リーディング ・ の一部に e-learning を取り入れた。</li> </ul>
H26年度 研究課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語リーディング指導法</li> <li>2. 沖縄の英語教育</li> </ol>
研究活動の 概要 (平成 2014) 年十六 度の	<p>「英語リーディング指導法」の研究課題は、担当英語授業にスラッシュリーディング、サイトトランスレーションを導入し、データ収集を準備中である。もうひとつの研究課題である「沖縄の英語教育の変遷」については研究を継続中である。</p>
平成 二十六 年(2014) 年度の 主な 研究 成果 等	(著書)
	(論文)
	(学会報告、学会活動)
	(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)
	(調査活動)
	(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)
	(学内活動) 共通教育委員会委員、海外学術研究助成委員会委員、総合社会学部予算員会委員
社会における活動 (平成 2014) 年十六 年度の	
平成 二十一 ～ 二十五 (2009 ～ 2013) 年度の 主な 研究 成果 等	(著書)
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「日本語と英語の意味のズレ」、共著、平成22年3月、図書出版 文理閣、京都文教大学現代社会学科編、現代社会学科への誘い(pp.128-129)</li> <li>2. 「通訳者のしごと」(書評)、共著、平成22年3月、図書出版 文理閣、京都文教大学現代社会学科編、現代社会学科への誘い(p.171)</li> </ol>
	(論文)
	(学会報告、学会活動)
<p>参加：</p> <p>平成22年 9月 日本通訳翻訳学会第11回年次大会、大東文化大学</p> <p>平成22年10月 日本時事英語学会第52回年次大会、東海大学</p> <p>平成22年11月 外国語教育学会第14回研究報告大会、東京外国語大学</p> <p>平成23年11月 外国語教育学会第15回研究報告大会、東京学芸大学</p> <p>平成24年12月 日本メディア英語学会東日本地区第85回研究例会、東京都市大学横浜キャンパス</p> <p>平成25年 7月 第13回小学校英語教育学会沖縄大会、琉球大学</p> <p>平成26年 9月 日本通訳翻訳学会第15回年次大会、愛知学院大学</p>	

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (3/3)

平成 二十一 ～ 二十五 (2009～2013) 年度の 主な 研究 成果 等	(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)
	(調査活動)
	(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)
	(学内活動)
	平成21年 4月 教務委員会委員「平22.3まで」 人間学部研究報告編集委員会委員「平22.3まで」 共通教育委員会委員「現在に至る」 公開講座委員会委員「平22.3まで」 平成22年 4月 研究成果刊行助成委員会委員「平24.3まで」 特別補助申請委員会委員「平24.3まで」 研究員派遣委員会委員「平23.3まで」 平成24年 4月 総合社会学部研究報告編集委員会(委員長「平25.3まで」,「委員「平26.3まで」」 平成25年 4月 総合社会学部予算委員会委員「現在に至る」
平成 二十一 ～ 二十五 (2009～2013) 年度の 社会 に 関 する 活動	(小中高との連携授業の講師)
	平成25年10月 京都文教高等学校ALP「日本語と英語の意味のズレ」, 於:同校